

グループ・スーパーヴィジョン(GSV)

～PCAGIP(パーソン・センタード・アプローチ・グループ・インシデント・プロセス)～

PCAGIPとは

PCAGIPとは、Person-Centered Approachの考え方を援用して、事例提供者が、自分自身でその事例を扱っていくための力(資源)が発現するように、グループに参加している全員が1つのチームとして関わりながら進めていくGSVです。

主役は「事例」ではなく「事例提供者」

PCAGIPでは事例提供者が「事例を出してよかった」と元気になれることを大きな目標としています。従って、必ずしも結論が出るとは限りません。むしろ、事例提供者の引き出しを増やすことが目的になります。

参加者全員がGSVの重要な構成メンバー

事例提供者以外の参加者は研修受講者のような受け身的な学習をするのではなく、同じチームの一員として一緒に考え、グループの参加者みんなで作っていくイメージを大切にしていきます。その場にいる全員がその場にとって重要な構成メンバーであり、それぞれがそれぞれのあり方で場に関与し、それぞれの考え方や感じ方を大事にしていくグループです。

長い発表資料は不要

事例提供者が用意するものは事例資料(B5用紙1枚程度、5行程度)だけです。事例提供者になったからといって長い発表資料を作成する必要はありません。また、どんな悩みでも「事例提供者」になることができます。むしろ大事なのは、提出した事例の解決や取り組みにどれだけ必要性を感じているかということです。

1人1人の自己成長のためのGSV

他の人の提供する事例に対して、1人1人が積極的に考え、一緒に関わっていくことで、他の人の事例であっても自分自身について考えることが多くなるはずで、そこから1人1人を成長させるヒントを見つけていけるかもしれません。

参考図書

『新しい事例検討法 PCAGIP 入門
パーソン・センタード・アプローチの視点から』
村山正治・中田行重 編著、創元社